

平成 27 年（2015）度日韓共同理工系学部留学生事業協議会 報告

1. 主催 : 筑波大学
2. 日時 : 2015 年 6 月 26 日（金） 13:00-17:00
3. 場所 : 筑波大学国際会館
4. 出席者 : 学生交流推進課 上河原 淳 補佐、井上 侑子 係員
国際教育交流センター 村岡 貴子 教授、西村 謙一 准教授
5. 式次第 : 別紙資料の通り
6. 講演 :
 - (1) 「国費外国人留学生制度と日韓共同理工系学部留学生について」（文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室国費留学生係長 柳瀬貴司）＊日韓共同理工系学部留学生事業関連のみ抜粋
 - ・日韓共同理工系学部留学生の 2015 年選抜スケジュールの紹介（今年度の留学推進フェア日程が 9 月 27 日と紹介されたが、日本側大学の要望を受けて再検討することとなった）
 - ・今後の検討課題として、面接試験実施方法、韓国の教育課程を踏まえた出題範囲の設定、試験解答の公表、1 大学当たりの受け入れ人数の検討などがある。
 - ・第 3 次事業にむけて、第 2 次事業のフォローアップ、韓国の大学修学能力試験（スヌン）活用、日本人の韓国留学、他分野への拡充などを検討する必要がある。
 - (2) 「日韓共同理工系学部留学生事業の発展方向」（大韓民国国立国際教育院 Education Researcher Hwang Hyejeong）
 - ・事業概況 : 2011 年より兵役休学を許可、平成 27 年 4 月に学部を卒業した第 2 次第 1 期生 81 名中 53 名が日本の大学院に進学、直近 3 年間の出身高校はほとんどが一般高校、第 2 次第 4 期以降の倍率は 3.3～3.4 倍で推移（2015 年は 3.36 倍）。
 - ・2015 年度選抜方式改定案 : 高校の成績および面接試験を加算する（筆記試験対策に集中し、高校での学業をおろそかにしてきた合格者の中から学部課程における不適応者が出ていることを受けたもの）。
 - ・将来に向けた提案 : 韓国での説明会と協議会の同時開催、大学修学能力試験の導入、予備教育課程の改革、学生管理の強化（入学条件の強化、成績に応じた奨学金の削減）、第 3 次事業。
 - (3) 「2015 年度第 2 次 6 期生韓国予備教育課程の現状報告」（慶熙大学校国際教育院院長 趙顕龍）
 - ・予備教育開始時点の日本語プレイスメントテストの結果は、過去数年と比較すると最低。
 - ・日本語能力が最も高いレベルの学生は過去数年と比較して優秀。
 - ・学生は日本語学習を例年以上に重視。他方、専門科目についてはあまり重視していない様子。
 - ・学生の負担を軽減するため、TOEFL と日本留学試験の各試験受験の免除。

- ・毎月、学生の成績および出席状況を評価。基準以下の学生に対する奨学金カット、保護者への通知、懲戒結果の貼り出しを実施。

7. 全体会議：

テーマ：日韓プログラムの受入れ体制について

目的：日韓生の渡日後の予備教育及び正規課程進学後の受入れ体制や修学支援について、複数の大学の事例や課題を共有し、より良い受入れの方策について検討する。

(1) 事例紹介：岡山大学、名古屋大学、東京外国語大学、筑波大学

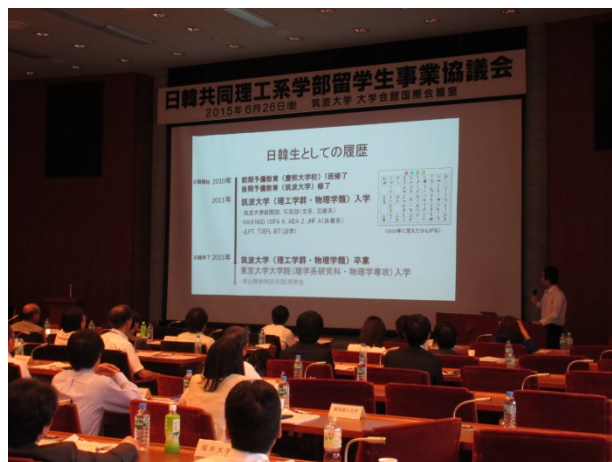
各大学より、現状の教育方針やカリキュラム等について報告があり、続いて質疑応答がなされた。

以下、順不同で、本学に関連する情報や主な提案について簡単にまとめる。

- ・岡山大学から大阪大学大学院への進学者数8名
- ・兵役を除き、休学・留年の割合は他の学生より少ない。
- ・無駄なことはしないという、ある種の合理性を感じるとのコメントが出された。
- ・予備教育の枠にとらわれない柔軟な制度的な運用は可能か。(例：教養科目の単位認定)

(2) 日韓生3名（筑波大学出身）による発表：在学生と卒業生による経験談が語られた。

次年度当番校：千葉大学



日韓共同理工系学部留学生事業協議会の様子：
岡山大学「岡山大学における日韓プログラムの受入れ体制について」（左）
日韓共同理工系学部留学生筑波大学OBによる発表（右）